

福岡市スポーツ推進審議会における各委員からの主な意見の概要（抜粋）

令和元年度第1回（6月）、第2回（8月）の福岡市スポーツ推進審議会における各委員の主な意見の概要は以下の通り（※令和2年6月に、個別に事務局に対して各委員よりご意見を頂戴した内容を含む）。

【総論】

- スポーツインテグリティについて、いわゆるクリーンなスポーツを目指す取組みであるが、今はスポーツの常識を社会の常識に合わせていく必要がある。現状を考慮すると、その点を計画に少し触れたほうが良いかと思う。
- 福岡市は総合型地域スポーツクラブよりも、公民館などを中心として地域のスポーツを推進していると以前聞いたが、体育館や総合型地域スポーツクラブ、民間スポーツクラブなど組織・集団で行うスポーツのあり方を含め、整理する必要がある。
- 新しい計画において、どこに施策の軸足を置くかは重要。付加価値をつけて推進すれば、時間があれば運動したい人はいると思う。個人的には、市民の健康・体力を維持・向上することに軸足を置くほうが、エビデンスも明確に出るのでわかりやすい。また、スポーツを楽しみながらするということも大事である。
- 計画論と実践論はつながっているが、別問題であり、市として責任が負える範囲で計画を考えていくべきというご意見と、計画としては全体の施策をとらえて考えていくべきという2つのご意見をいただいた。計画では全体をとらえ、すべての機関が協力しながら取り組む必要があると考え。この部分は行政、この部分は別の機関というように主体を分けていけば良いと思う。
- 健康づくりの観点から、競技スポーツでなく、ウォーキングなどでも良いので、習慣をつけていただけるとありがたい。
- 今流行っているものを把握して対策を行うと良いのではないか。

【多様な主体によるスポーツ】

- 高齢者もそうであるが、障がい者についても、なかなか一人ではスポーツをしにくい。たとえば、目が不自由な方が走ろうと思っても一人では難しいので、一緒に走ってくれる人がいる。そういう人にどこで出会えるのか、どこに聞けば良いか、どう育成するかなど、パイプ役が必要。

- 障がい者スポーツについては、教育機関など他の団体との連携が必要。
- 福岡市はユニバーサル都市を謳っており、**性的マイノリティの方や外国人など、高齢者・障がい者以外のマイノリティとされる方々にもスポーツに触れる機会を確保することが大事。**

【世代に応じた施策の展開】

- **子どもに目を向けるべきという意見は大賛成**である。若い人への視点が欠落していると思うので、SNSを使いスポーツ情報を発信するなど、本格的な検討を行ってほしい。
- **世代に応じた対策**も考えていくことが必要。

【子どものスポーツ】

- こども未来局の「わいわい広場」はとても良い。多種目あり、子どもが遊べる環境として、小さいうちに楽しさを身に付けることは大切である。
- 若い人のスポーツ離れが進んでいることは気になる。20代の「する」、「みる」割合は、データ上も少ない。高齢者にとってもスポーツは楽しみになっているので、生涯スポーツも大切だが、原点に戻って**子どもがスポーツに触れる機会を増やすことも必要**ではないか。子どもに目を向け、学校以外にどれだけスポーツに関われるか、ワクワクするような体験ができるかが重要である。
- **小さい頃のスポーツの体験や楽しみを味わうことは大切**である。

【情報発信】

- 広告費にも予算をかけたらもっと参加者が増えると思う。
- 福岡市は外からの転入者も多いため、広報を頑張っても届かない、そもそも情報を見ていないことが多く、努力が報われない可能性がある。費用対効果的にも厳しいのではないか。若者向けの別のアプローチを考えるべきではないか。

【民間企業等との連携】

- 最近、食事や運動、休養など社員の健康に力を入れる「健康経営」を進める会社が増えている。今後、会社間での交流が増えると良い。
- スポーツをしない人は、楽しくないし、魅力的でないから。面倒くさい、汗をかくのが嫌、きついなどもあるので、もう少し取り組みやすくすることが必要である。それから、ブランド化が大切。**民間企業とタイアップ**して、やっていくと良い。
- **企業が参入してくれる仕掛けづくり**も必要

【地域スポーツ】

- スポーツの目的は、市民間の健康的なコミュニケーションである。その手段として、今は個々のニーズも多様化しているので、公民館を中心とした地域を原点として、市民のニーズを把握し、それを市が集約していく形が良い。
- 福岡市では、147 小学校区に公民館があり、市民にとって身近な場所である。高齢者に来てもらい、体を動かしてもらうことがスポーツの役目だと思う
- 公民館としても、コーディネート役ができるよう検討を進めているところである。

【「みる」スポーツ】

- 「みる」スポーツについて、好きな人は DAZN などいろいろなチャンネルで楽しんでいるが、興味の無い人は全然見ないというように、はっきり分かれる傾向にある点は気になる。
- 近くに仕事終わりにふっと行ける雰囲気は大事。仕事終わりに、明るく、歓声があり、遊びに行ける、そのようなアフター5をスポーツで楽しめる場があると良い。
- 「観てすごい、やってみたい、やらせたい」となれば、自然と「みる」から「する」やボランティアで「ささえる」につながっていく。そのような雰囲気の醸成が大事で、地道な努力が必要である。

【スポーツ環境】

- 最近、自転車が行き通せる路側帯の整備も進んでおり、スポーツ環境の整備につながる。ウォーキング推進にも歩道の整備が重要であり、他部局との連携も重要である。
- スポーツを「ささえる」について、ボランティアに重点を置き、具体的な目標を掲げてほしい。
- 今後ますます高齢化が進む中、どうやって施設を維持していくかは重要で、税金だけに頼らない道筋を探る必要がある。
- 福岡市には、たくさん良い施設やイベントがあるのに知る術がなく、一般的には知られていない。主催者としても人が多いほうがモチベーションも上がるし、知ってもらえればボランティアをしてくれる人も増えると思う。